

田村虎藏編纂
國定小學

讀本唱歌

常用三年學

作文館發兌

K120.72
35
3

K120.73

35

3

小國定 讀本唱歌

(尋常小學三學年用)

目次

のあそび
たうろ

五

夕立

七

元寇

十一

としのくれ

十五

北白川宮

二十

明治
27 9 27
内空

のあそび

(へ調二拍子)

愉快ニ

中等ノ速度



	1	5	1	2	3	0	5	3	1	3	2	0	3	2	1	6	5	0
1.	ハ	ル	ガ	キ	タ		ハ	ル	ガ	キ	タ		ド	コ	ニ	キ	タ	
2.	ハ	ナ	ガ	サ	ク		ハ	ナ	ガ	サ	ク		ド	コ	ニ	サ	ク	
3.	ト	リ	ガ	ナ	ク		ト	リ	ガ	ナ	ク		ド	コ	テ	ナ	ク	



	5	6	5	3	2	3	2	1	5	0	5	3	2	3	1	0
ヤ	マ	ニ	キ	タ	ノ	ニ	キ	タ	サ	ト	ニ	キ	タ			
ヤ	マ	ニ	サ	ク	ノ	ニ	サ	ク	サ	ト	ニ	サ	ク			
ヤ	マ	テ	ナ	ク	ノ	テ	ナ	ク	サ	ト	テ	ナ	ク			

のあそび

一 春がきた。

春がきた。

どこに、きた。

山に、来た。

野に、来た。

さとに、来た。

二 花がさく。 花がさく。

どこに、さく。

山に、さく。 野に、さく。

さとに、さく。

三 鳥がなく。 鳥がなく。

どこで、なく。

山で、なく。 野で、なく。

さとで、なく。



三

二

一 いまは、いそがし、 たらゑどき。
 ここでは、馬に 田をすかせ、
 そこでは、苗を、 田に、うゑる。
 すかせる。うゑる。 いそがしや。

二 これから、たびたび、 田草とり。
 したいに、てかすが、 ふえていく。
 どうぞ、あきまで、 つごよく、
 天氣もつづけ。 雨もふれ。

た ら ゑ

た ら ゑ
 (へ調二拍子)

快活ニ 裕早ク

1. イマハー イソーガシ タウエド キ
 2. コレカラ タビータビ タクサト リ

3. 4 3 2 | 1 6 1 0 | 5 1 2 3 1 | 2 0 |
 コ コ デ ハ ウ マ ニ タ ナ ス カ セ
 シ ダ イ ニ テ カ ズ ガ フ エ テ イ ク

3. 3 1 1 | 5. 5 3 3 | 6. 6 6 5 3 | 5. 0 |
 ソ コ テ ハ ナ ヘ ナ タ ニ ウ エ ル
 ド ウ ソ ア キ マ デ ツ ゴ ヨ ク

3. 4 3 2 | 1 6 1 0 | 5 1 2 3 2 | 1. 0 ||
 ス カ セ ル ウ エ ル イ ソ ガ シ ヤ
 テン キ モ ツ ツ ケ ア メ モ フ レ



57

一 見るまに、
くもる
青い空。
ひかびか、ひかる
いなびかり。
なりだすかみなり、
ごろごろごろ。
七

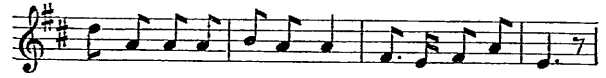
夕ゆふ立たち

夕立

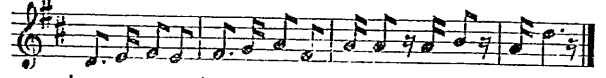
勇マシク (に調二拍子) 稍早ク



1. $\dot{1}$ $\underline{5}$ $\underline{5}$ $\underline{5}$ | $\underline{6}$ $\underline{5}$ $\underline{5}$ | $\underline{3}$. $\underline{2}$ $\underline{3}$ $\underline{4}$ | $\underline{5}$. $\underline{0}$
 ミ ル マ ニ ク モ ル ア テ イ ツ ラ
 2. マ タ ナ ル ヒ カ ル ヲ ノ ウ チ ニ
 3. ツ ツ イ テ ヒ カ ル ナ ル ヒ カ ル
 4. ヤ ガ テ - ア メ キ ミ ヲ ラ ハ レ テ



$\dot{1}$ $\underline{5}$ $\underline{5}$ $\underline{5}$ | $\underline{6}$ $\underline{5}$ $\underline{5}$ | $\underline{3}$. $\underline{2}$ $\underline{3}$ $\underline{5}$ | $\underline{2}$. $\underline{0}$ |
 ビ カ ビ カ ヒ カ ル イ ナ ビ カ リ
 キ ノ ハ チ ウ ッ テ ヤ ネ ウ ツ テ
 ア メ ハ - ダ シ ダ ヒ ド ク ナ ル
 イ ツ カ - ヒ ガ テ テ ニ シ ガ テ



1. $\underline{2}$ $\underline{3}$ $\underline{2}$ | $\underline{3}$. $\underline{4}$ $\underline{5}$ $\underline{3}$ | $\underline{5}$ $\underline{5}$ $\underline{0}$ $\underline{5}$ $\underline{6}$ $\underline{0}$ | $\underline{5}$ $\underline{1}$. $\underline{0}$ ||
 ナ ヲ ダ ス カ ミ ナ ヲ コ ロ コ ロ コ ロ
 フ リ ダ ス オ ホ ア メ バ ラ バ ラ バ ラ
 ノ キ パ ノ ア マ ダ レ ボ チ ボ チ ボ チ
 ク サ キ ニ シ ヅ ク ガ キ ラ キ ラ キ ラ

二 またなる、ひかる、そのうちに、
木のはをうって、屋根うって、

ふりだすおほあめ、

ばらばらばら。

三 つづいて、光る。なる。光る。

雨は、だんだん、ひどくなる。

のきばのあまだれ、

ぼちぼちぼち。

ハ



四 やがて、

雨やみ、

空はれて、

いつか、

日が出て、

にじが出て、

草木に、しづくが、

きらきらきら。

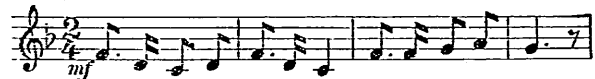
九

元 寇

(ハ調二拍子)

活潑ニ

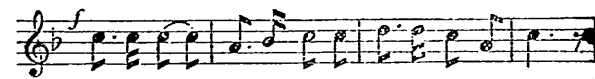
稍早ク



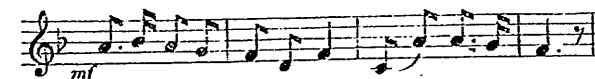
1. 1. 6 5 6 | 1. 6 5 | 1. 2 3 | 2. 0 |
 1. イ マ カ ラ ム カ シ ロ ッ ビ ク ネ ン
 2. ヲ ガ ヒ ノ モ ト ノ ア シ ハ ミ ナ



3. 3 1 | 2. 1 6 1 | 5 3 3 2 | 1. 0 |
 コ ロ ハ コ ア ン ヨ ネ ン ノ ナ ツ
 オ ノ レ ニ ッ ク キ ゲ ン グ ン メ



5. 5 5 5 | 3. 4 5 5 | 6. 6 5 3 | 5. 0 |
 ゲ ン ノー ク ニ カ ラ ヲ ガ ク ニ ニ
 ニ ッ ボ ン ダ ン シ ノ リ テ ミ ヨ ト



3. 4 3 2 | 1. 6 1 | 5 3 3 2 | 1. 0 |
 ヨ セ タ ル テ キ ハ ジュー ヨ マ ン
 ス ス ン テ テ キ チ ヤ ア リ タ リ

元 寇

元 寇

一 今からむかし、六百年、

ころは弘安四年の夏、

元の國からわが國に、

よせたるてきは十餘萬

二 わが日本の武士は、みな、

おのれにつくき元軍め、

日本男子のうで見よと、

すすんでてきをやぶりたり。

三このとき、大風ふきあれて、

なみは、山より、まだ高く、

てっかん、四千、くつがへり、

こはれて、海にしづみたり。

四あー。元軍の十餘萬

にげたるものは、わづかにて、

あとは、のこらず、わが國の、

海にしづみてしまひたり。



一 花がさいた。と
 いつか野山が
 あつい。あついと
 いつか木のはが
 はちりしもふり、
 白くなりたり、
 あ。今月は
 あ。もう、げふは
 二十日すぎ。

いふうちに、
 青くなり、
 いふうちに、
 あかくなる。
 雪ふりて、
 山のみにね。

十五

としのくれ

としのくれ

(い短調四拍子)

淋シゲニ

中等ノ速度

1. ハーナガ サイタト イフウチニ
 2. ハーチリ シモフリ エキフリテ

イツカ ノヤマガ アチリナリ
 シロク ナリタリ ヤミノミネ

アツイ アツイト イフウチニ
 アコン ゲツハー ジューニガツ

イツカ キノハガ アカクナル
 アモウ ケフハー ハツカスギ

十四

三十日たたぬに、

としもとり、

十六

花がまたさく

四月には、

四年生にも、

ぼくはなる。

なまけることが

できはせん。

四 ことしはすこし、

休んだが、

もう、来年は、

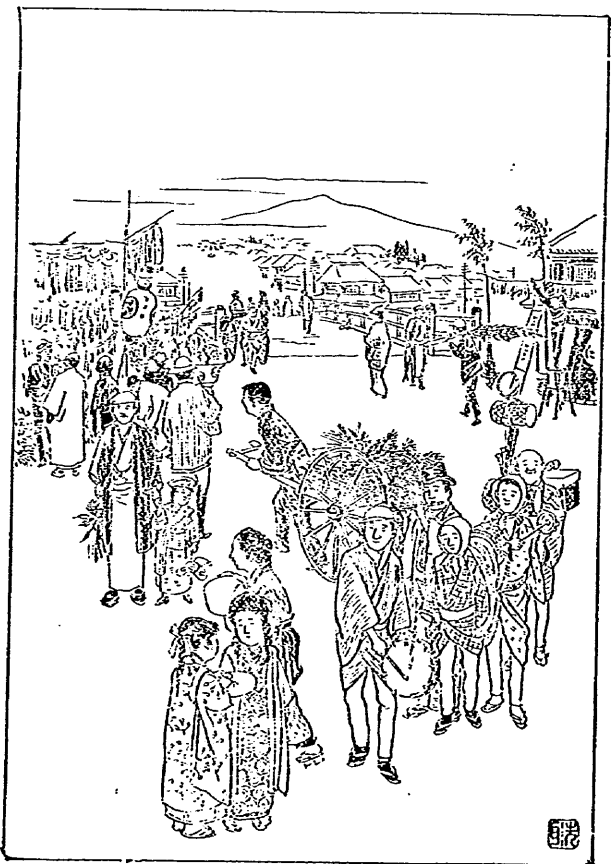
休まんぞ。

雨がふっても、

さむくても、

休みはせんぞ。

せい出すぞ。



十七

北白川宮
(12調二拍子)

歳ヲ込メテ 始早ク

| 1 5 1 3 | 5. 5 5 3 | 6. 6 6 6 | 5-0 |

1. メイシノニジューハチネンニ
2. チョーロードロクガツシチガツノ

| 3 1 3 5 | 2. 2 2 2 | 3. 2 1 2 | 6-0 |

- タイラン トーニ オコリタル
アツサキ ビシキ ソノウヘニ

| 5. 6 5 1 | 2. 2 2 2 | 3. 2 1 2 | 3-0 |

- アルモノドモチー シツメント
ミヅハースクナク シロクダラズ

十九

北白川宮
(12調)

| 5. 3 1 2 | 3. 3 5 5 | 6. 6 6 6 | 5-0 |

- キタシラ カハノー ミヤテンカ
ヤマハケ ハシクー ミチヲルシ

| 1. 1 7 6 | 5. 5 3 3 | 6. 5 3 5 | 2-0 |

- オホクノ ケンジン ヒキツレテ
イクサニ ツヨキー ケンジンモ

| 3. 2 1 2 | 6. 6 5 5 | 1 3 2 3 | 1-0 ||

- イサンテ オイデー ナサレタリ
コノナン キニハー ヨリタリ

十八

北白川宮

一 明治の二十八年に、

臺灣島におこりたる

わるものどもをしづめんと、

北白川宮殿下、

多くの軍人ひきつれて、

勇んでおいでなされたり。

二 ちよーど六月、七月の

暑さきびしき、そのうへに、

水はすくなく、

食たらず、

山はけはしく、

道わるし。

いくさにつよき

軍人も、

このなんぎには、

よわりたり。



